「この人 41」　　**柳澤 京子** 78 歳 宮城県

編集部　震災から一年経ちましたが、柳澤さんは、避難場所からも、ずっと投句くださって、頭が下がりました。

柳　澤　ラジオで津波襲来を聞いておりましたら、隣の家の方が早く避難をと、車に乗せていただいて逃げました。仙台の息子とも連絡がとれず、寒さに震えながら一夜を過ごしました。友人、知人、多くの方を失いました。この年齢で生きていてよいのか…などと思ったりもしましたが、少し落ち着いてから外に出ますと、瓦礫の下に蕗の薹を見つけまして、自然の植物の強さを感じました。そして、ふつふつと俳句が出る不思議。

編集部　滑稽俳句を始められたのは？

柳　澤　平成二十一年、朝日新聞の記事で、滑稽俳句協会の会員募集を知りまして、電話で申し込みました。「肩の凝らない自由な発想で」との会長の言葉に、心動かされました。

編集部　今後の俳句への意欲をお聞かせください。

柳　澤　滑稽俳句は、笑えて、ストレスを発散させてくれます。やはり、楽しい句を詠みたいですね。未熟者ですが、皆様の足元に近づきたいです。

【代表句】

死んだ蛾やだじやれの夫の一騎打ち
尻出して炬燵の夫は知りません
妻いらぬ佳人ナースや梅の花
蕗のとう瓦礫の下よりほつこりと
クリスマス老婆の口唇奪う猫

滑稽俳句協会ホームページに掲載の記事・写真・イラストなど、
すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。